



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 1 年 9 月 2 8 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 1 - 3 0 4 1 0 4
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 1 - 3 0 4 1 0 4]

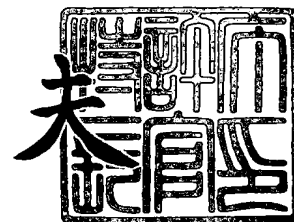
出 願 人
Applicant(s): カネボウ株式会社
 株式会社吉野工業所



2 0 0 3 年 1 2 月 1 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 01-09-21

【提出日】 平成13年 9月28日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B65D 83/14
B65D 83/30

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県小田原市寿町 5 - 3 - 2 8 カネボウ株式会社
化粧品研究所内

【氏名】 神保 圭治

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区海岸 3 - 2 0 - 2 0 カネボウ株式会社 カ
ネボウ ホームプロダクツ内

【氏名】 濱田 知実

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区海岸 3 - 2 0 - 2 0 カネボウ株式会社 カ
ネボウ ホームプロダクツ内

【氏名】 石川 桂子

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区海岸 3 - 2 0 - 2 0 カネボウ株式会社 カ
ネボウ ホームプロダクツ内

【氏名】 青木 芳恵

【発明者】

【住所又は居所】 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会社吉野工業所
内

【氏名】 角田 義幸

【発明者】

【住所又は居所】 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会社吉野工業所
内

【氏名】 當麻 徹

【特許出願人】

【識別番号】 000000952

【氏名又は名称】 カネボウ 株式会社

【特許出願人】

【識別番号】 000006909

【氏名又は名称】 株式会社 吉野工業所

【代理人】

【識別番号】 100076598

【弁理士】

【氏名又は名称】 渡辺 一豊

【電話番号】 03-3382-6771

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2001-193906

【出願日】 平成13年 6月27日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 009162

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書
【発明の名称】 注出容器
【特許請求の範囲】

【請求項 1】 頭部(20)の上面中央に、開閉機能付きの注出ノズル(21)を起立させた構成であり、左右に並列に隣接組合せされ、該注出ノズル(21)の押し下げ動作により内容物の注出が可能な容器である容器体(19)の一对と、該一对の容器体(19)の上端部に外嵌する外装筒(2)の上端に連設された頂板(4)の中央に、前記注出ノズル(21)が突出する開口部(5)を開設すると共に、前記頂板(4)の上面にガイド片(7)を立設して構成され、前記一对の容器体(19)の上端部に不動に外装する装着体(1)と、前記注出ノズル(21)が密嵌入して突き当たる一对の段付き孔(11)を下面両側部に開設すると共に、上面中央に注出筒片(12)を立設し、該注出筒片(12)が形成する注出口と前記両段付き孔(11)とを連通させる注出路(10)を内部に形成した押圧ブロック(9)を有し、該押圧ブロック(9)の一部に、前記ガイド片(7)が上下に摺動変位可能に遊嵌するガイド孔(13)を開設し、前記押圧ブロック(9)の前後面の中央に、前記外装筒(2)の外表面に沿って垂下する一对の垂下片(15)を有するキャップ体(8)とから構成され、前記垂下片(15)および外装筒(2)のいずれか一方に、外装筒(2)の前後面の中央部に対向する位置になるよう、傾斜ガイド面(18)を有する摺接突片(17)を付設した一对の操作片(25)を連設し、他方に前記傾斜ガイド面(18)に当接する一对の当接縁(27)を設け、一对の操作片(25)の容器体(19)側への押圧により注出ノズル(21)を開状態にできるよう構成した注出容器。

【請求項 2】 容器体(19)をエアゾール式容器とした、請求項 1 記載の注出容器。

【請求項 3】 垂下片(15)の下端部に、該垂下片(15)を延長して操作片(25)を垂下連設し、当接縁(27)を外装筒(2)の下面縁の一部である当接下縁(27a)とし、前記操作片(25)の前記当接下縁(27a)に対向する内側面箇所、斜め内下方に下降傾斜した傾斜ガイド面(18)を前記当接下縁(27a)に摺接させる摺接突片(17)を突設し、キャップ体(8)が前記注出ノズル(21)で押し上げられた状態で、傾斜ガイド面(18)が、当接下縁(27a)に対向する箇所の上方に、少なくとも前記注出

ノズル(21)を開状態とすることができる高さ分を有する構成とした、請求項1または2記載の注出容器。

【請求項4】 外装筒(2)の前後表面のそれぞれに、垂下片(15)および操作片(25)の両側に近接して位置し、突出端を前記垂下片(15)および操作片(25)の外表面よりも外方に位置させる突出高さを有する縦突条状の一对の支え突片(3)を設けた請求項3記載の注出容器。

【請求項5】 操作片(25)の下端部近傍の幅を拡幅することにより、側端面に係止段差(25a)を形成し、該係止段差(25a)が支え突片(3)の下端面に乗り越え係止する構成とした請求項4記載の注出容器。

【請求項6】 係止段差(25a)の支え突片(3)下端面への乗り越え係止動作においての弾性的な戻り変形により音が発生される構成とした請求項5記載の注出容器。

【請求項7】 垂下片(15)の略中央高さから下端部にかけての部分に窓状の垂下片開口部(30)を開設すると共に、前記垂下片(15)の下端面から底壁を介して上方向に操作片(25)を連立設し、外装筒(2)の下端面の前後面の中央部の位置から一对の外鍔状の外鍔片(28)を付設し、当接縁(27)を前記外鍔片(28)の下面縁の一部である外鍔下縁(27c)とし、容器体(19)に装着体(1)さらにキャップ体(8)を組付けた状態で、前記外鍔下縁(27c)が前記垂下片開口部(30)に対向する箇所位置し、前記操作片(25)の前記外鍔下縁(27c)に対向する内側面箇所に、斜め内下方に下降傾斜した傾斜ガイド面(18)を前記外鍔下縁(27c)に摺接させる摺接突片(17)を突設し、前記キャップ体(8)が前記注出ノズル(21)で押し上げられた状態で、キャップ体(8)が前記注出ノズル(21)で押し上げられた状態で、傾斜ガイド面(18)が、外鍔下縁(27c)が対向する箇所の上方に、少なくとも前記注出ノズル(21)を開状態とすることができる高さ分を有する構成とした、請求項1または2記載の注出容器。

【請求項8】 外装筒(2)の前後面の中央部の下端部から該外装筒(2)の筒壁を下方に延長し、窓状の延長片開口部(32)を開設した一对の延長片(26)を垂下設し、さらに該延長片(26)の下端面に底壁を介して上方向に操作片(25)を立設し、垂下片(15)の略中央高さの部分に窓状開口部(31)を開設し、当接縁(27)を前記窓

状開口部(31)の下部開口縁の一部である当接上縁(27b)とし、容器体(19)に装着体(1)さらにキャップ体(8)を組付けた状態で、前記垂下片(15)の下部が前記延長片(26)と操作片(25)の間に位置し、また前記当接上縁(27b)が前記延長片開口部(32)に対向する箇所位置し、前記操作片(25)の前記当接上縁(27b)に対向する内側面箇所に、斜め内上方に上昇傾斜した傾斜ガイド面(18)を前記当接上縁(27b)に摺接させる摺接突片(17)を突設し、前記キャップ体(8)が前記注出ノズル(21)で押し上げられた状態で、キャップ体(8)が前記注出ノズル(21)で押し上げられた状態で、傾斜ガイド面(18)が、当接上縁(27b)に対向する箇所下方に、少なくとも前記注出ノズル(21)を開状態とすることができる高さ分を有する構成とした、請求項 1 または 2 記載の注出容器。

【請求項 9】 操作片(25)の摺接突片(17)に、当接縁(27)に係止する係止部(29)を付設した請求項 1、2、3、7、または 8 記載の注出容器。

【請求項 10】 係止部(29)の当接縁(27)への係止を乗り越え係止とし、該乗り越え係止動作においての弾性的な戻り変形により音が発生される構成とした請求項 9 記載の注出容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、一対の注出ノズルを有した容器から同時に内容物を噴出させると共に、この両噴出内容物を一緒に注出する注出容器に関するものである。


【0002】

【従来の技術】

例えば、或る種の染毛剤のように、2 種の内容物を使用時に一緒に注出するタイプのもので、内容物を個々にエアゾール式容器に収納し、使用時に、この一対のエアゾール式容器から内容物を同時に噴出させると共に、この噴出した内容物を一緒に一か所から注出する容器として、特開平 4 - 1 0 2 5 6 9 号公報に開示された技術がある。

【0003】

この従来技術は、内容物を収納した一対のエアゾール式容器と、この一対のエ



アゾール式容器を並列に隣接して収納する有底の収納ケースと、この収納ケースの上端開口部を塞ぐ形態でヒンジ結合され、下面に各エアゾール式容器の注出ノズルが密嵌入して突き当たる段付き孔と、上面に吐出口と、そして両段付き孔と吐出口とを連通させる案内路とを形成したガイド部材の前端に、収納ケースの外側の前下方に垂下した押動レバーを連設した可動カバーと、から構成されている。

【0004】

この従来技術にあっては、容器を掴持した片手の指で押動レバーを収納ケース側に押圧することにより、ヒンジ結合部を軸としてガイド部材を下降傾動させ、これにより一対のエアゾール式容器の注出ノズルを同時に押し下げて開放し、両エアゾール式容器の内容物を、段付き孔、案内路そして吐出口を経て、一緒に吐出するので、一つの押動レバーに対する簡単な押圧操作により、二つのエアゾール式容器の内容物を、同時にかつ一緒にした状態、すなわちそのまま使用することのできる状態で吐出する、と云う優れた効果を発揮する。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記した従来技術にあっては、吐出口を設けた可動カバーを収納ケースにヒンジ結合する必要があるので、その組付け構造が簡潔ではなく、かつ片側に対する力の作用による可動カバーの傾動下降により、エアゾール式容器の注出ノズルを開放するので、両エアゾール式容器の注出ノズルの押し下げ程度の差が生じる場合があり、このため両エアゾール式容器から吐出される内容物の量が不均等となり、使用者はこの不均等を認識することなく不適切な混合比で使用してしまう等の恐れがあった。

【0006】

同様に、可動カバーの傾動下降によりエアゾール式容器の注出ノズルを開放するので、可動カバーの段付き孔と注出ノズルとの間のシールを確保するのが難しい、と云う問題があった。

【0007】

さらに、押動レバーは、撓み変形のしない硬質構造物であり、この硬質な押動

レバーが容器の前方に突出位置することになるので、容器の取扱い時および格納時に、突出した押動レバーが邪魔となる、と云う問題があった。

【0008】

そこで、本発明は、上記した従来技術における問題点を解消すべく創案されたもので、容器を掴持した片手の指先の操作により、エアゾール式容器、ポンプ式容器等の注出ノズルを有した容器の注出ノズルを押し下げる部分を、簡単にかつ安定して下降変位させるようにすることを技術的課題とし、もって内容物を注出する部分の姿勢を一定させると共に、強固で安定したシール性を確保し、さらに良好で安全な取扱い性を有した注出容器を得ることを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】

上記技術的課題を解決する本発明の内、請求項1記載の発明の手段は、頭部の上面中央に、開閉機能付きの注出ノズルを起立させた構成であり、左右に並列に隣接組合せされ、この注出ノズルの押し下げ動作により内容物の注出が可能な容器である容器体の一对を有すること、

この一对の容器体の上端部に外嵌する外装筒の上端に連設された頂板の中央に、容器体の注出ノズルが突出する開口部を開設すると共に、頂板の上面にガイド片を立設して構成され、一对の容器体の上端部に不動に外装する装着体を有すること、

容器体の注出ノズルが密嵌入して突き当たる一对の段付き孔を下面両側部に開設すると共に、上面中央に注出筒片を立設し、この注出筒片が形成する注出口と両段付き孔とを連通させる注出路を内部に形成した押圧ブロックを有し、この押圧ブロックの一部に、ガイド片が上下に摺動変位可能に遊嵌するガイド孔を開設し、押圧ブロックの前後面の中央に、外装筒の外表面に沿って垂下する一对の垂下片を有する、キャップ体を有すること、

垂下片および外装筒のいずれか一方に、外装筒の前後面の中央部に対向する位置になるよう、傾斜ガイド面を有する摺接突片を付設した一对の操作片を連設し、他方に傾斜ガイド面に当接する一对の当接縁を設けること、

一对の操作片の容器体側への押圧により注出ノズルを開状態にできるよう構成す

ること、
にある。

【0010】

並列に隣接配置された一对の容器体の上端部に、上方から装着体を不動に外装組付けし、この装着体を跨ぐ姿勢でキャップ体を組付けて注出容器の組立てを完了するが、キャップ体の組付けにより、装着体の開口部から突出した容器体の注出ノズルがキャップ体の段付き孔に密嵌入すると共に、垂下片および外装筒のいずれか一方の、外装筒の前後面中央部に対向する位置に連設した操作片の摺接突片の傾斜ガイド面に、他方に設けた当接縁が当接する。

【0011】

この状態から、容器を握持した片手の親指と人差し指とで、注出容器の前後面に対向して位置する一对の操作片を摘むように押圧すると、当接縁に当接している摺接突片の傾斜ガイド面の作用により、キャップ体が押圧ブロックと一緒に容器体に対して相対的に引き下げられ、これにより両容器体の注出ノズルが等しく押し下げられる。

【0012】

注出ノズルが押し下げられると、両容器体内の内容物が注出ノズルから噴出され、両段付き孔から注出路を経て注出筒片内に進入し、ここで合流して注出容器から外部に注出される。

【0013】

両注出ノズルの押し下げ、すなわちキャップ体の押圧ブロックの引き下げは、この押圧ブロックの前後面中央部から垂下設された両垂下片の容器体および装着体に対する相対的な引き下がりによって達成されるので、押圧ブロックは傾くことなく引き下げられ、段付き孔と注出ノズルとの間のシールを確実に保持することができる。

【0014】

また、両注出ノズルは同時に開放操作されることになり、さらに注出筒片はその姿勢を傾動変化させることがない。

【0015】

キャップ体の押圧ブロックは、両操作片が押圧されない限り、下降変位しないので、不本意に片方の操作片が押圧されたとしても下降変位せず、容器体の内容物を不都合に注出することがない。

【0016】

請求項2記載の発明の手段は、請求項1の発明において、容器体をエアゾール式容器としたことにある。

【0017】

請求項2の上記構成により、両操作片の押圧操作により容器体の注出ノズルが開状態となり、内容物が噴出、両段付き孔から注出路を経て注出筒片内に進入し、ここで合流して注出容器から外部に注出される。

【0018】

注出ノズルが押圧ブロックにより傾くことなく、また両容器が等しく押し下げられるので、高圧で噴出するエアゾールにおいても十分なシール性を確保すると共に、両容器の内容物の混合を均一に達成することが可能となる。

【0019】

請求項3記載の発明の手段は、請求項1または2記載の発明において、垂下片の下端部に、この垂下片を延長して操作片を垂下連設し、当接縁を外装筒の下面縁の一部である当接下縁とすること、操作片の当接下縁に対向する内側面箇所、斜め内下方に下降傾斜した傾斜ガイド面を当接下縁に摺接させる摺接突片を突設すること、キャップ体が注出ノズルで押し上げられた状態で、傾斜ガイド面が、当接下縁に対向する箇所上方に、少なくとも前記注出ノズルを開状態とすることができる高さ分を有する構成とすること、にある。

【0020】

請求項3記載の上記構成により、装着体の外装筒の下端部をそのまま当接縁とし、外装筒に外嵌する垂下片をそのまま延長して操作片としたものであり、簡単な構造で操作部分を形成することができる。

【0021】

容器を掴持した片手の親指と人差し指とで、注出容器の前後面に対向して位置する一対の操作片を摘むように押圧すると、斜め内下方に下降傾斜した傾斜ガイ

下面に沿って、当接下縁が容器体、装着体と共に持ちあがり、すなわちキャップ体が押圧ブロックと一緒に容器体に対して相対的に引き下げられ、これにより両容器体の注出ノズルが等しく十分に押し下げられる。

【0022】

請求項4記載の発明の手段は、請求項3の発明の構成に、外装筒の前後表面のそれぞれに、垂下片および操作片の両側に近接して位置し、突出端を、垂下片および操作片の外表面よりも外方に位置させる突出高さを有する縦突条状の一对の支え突片を加えたこと、にある。

【0023】

請求項4の上記構成により、キャップ体の垂下片および操作片を装着体の支え突片が左右から支える状態となるので、他の物品の垂下片および操作片に対する引っ掛かりにより、キャップ体の姿勢が傾動変位するのを防止すると共に、容器が他の物品に前後から挟まれた状態となっても、この他の物品に対する支え突片の突き当たりにより、両垂下操作片が同時に押圧されるのを確実に防止する。

【0024】

請求項5記載の発明の手段は、請求項4記載の発明において、操作片の下端部近傍の幅を拡幅することにより、この操作片の側端面に係止段差を形成し、この係止段差が支え突片の下端面に乗り越え係止する構成とすること、にある。

【0025】

請求項5の上記構成により、係止段差と支え突片下端面の乗り越え係止により、不本意なキャップ体の取り外れをより確実に防止する。

【0026】

請求項6記載の発明の手段は、請求項5記載の発明の手段において、係止段差の支え突片下端面への乗り越え係止動作においての弾性的な戻り変形により音が発生される構成とすること、にある。

【0027】

請求項6の上記構成により、係止段差と支え筒片下端面との乗り越え係止により、キャップ体の容器体および装着体への組付きが完了するが、この組付き状態を乗り越え係止時の音で確認することができ、安全性に優れ、安心して使用する

ことができる。

【0028】

請求項7記載の発明の手段は、請求項1または2の発明において、垂下片の略中央高さから下端部にかけての部分に窓状の垂下片開口部を開設すると共に、垂下片の下端面から底壁を介して上方向に操作片を連立設すること、外装筒の下端面、前後面の中央部の位置から一対の外鍔状の外鍔片を付設し、当接縁を外鍔片の下面縁の一部である外鍔下縁とすること、容器体に装着体さらにキャップ体を組付けた状態で、外鍔下縁が垂下片開口部に対向する箇所位置すること、操作片の外鍔下縁に対向する内側面箇所に、斜め内下方に下降傾斜した傾斜ガイド面を外鍔下縁に摺接させる摺接突片を突設すること、キャップ体が注出ノズルで押し上げられた状態で、傾斜ガイド面が、外鍔下縁に対向する箇所の上方に、少なくとも前記注出ノズルを開状態とすることができる高さ分を有する構成とすること、にある。

【0029】

請求項7記載の上記構成により、操作片を底壁を介して上方に連立設しており、また当接縁を外鍔片の下面縁としているので、傾斜ガイド面と当接縁との当接を外装筒の外周面から離れた位置に配置することができ、操作片の押圧動作における、変位幅を大きくとることができ、注出ノズルの押し下げ距離を大きくすることが可能となる。

【0030】

請求項8の発明の手段は、請求項1または2の発明において、外装筒の前後面の中央部の下端部からこの外装筒の筒壁を下方に延長し、窓状の延長片開口部を開設した一対の一対の延長片を垂下設し、さらに延長片の下端面に底壁を介して上方向に操作片を立設すること、垂下片の略中央高さの部分に窓状開口部を開設し、当接縁を窓状開口部の下部開口縁の一部である当接上縁とすること、容器体に装着体さらにキャップ体を組付けた状態で、垂下片の下部が延長片と操作片の間に位置し、また当接上縁が延長片開口部に対向する箇所位置すること、操作片の当接上縁に対向する内側面箇所に、斜め内上方に上昇傾斜した傾斜ガイド面を当接上縁に摺接させる摺接突片を突設すること、キャップ体が注出ノズルで押

し上げられた状態で、傾斜ガイド面が、当接上縁が対向する箇所下方に、少なくとも注出ノズルを開状態とすることができる高さ分を有する構成とすること、にある。

【0 0 3 1】

請求項 8 は、外装筒に操作片を接続し、垂下片に窓状開口部を開設し、当接縁を設ける構成であり、操作片の押圧操作によりキャップ体が下方に引き下げられ動きになり、容器体の持ち上げ動作を伴わないので、注出操作を安定して実施することが可能である。

【0 0 3 2】

請求項 9 記載の発明の手段は、請求項 1、2、3、7 または 8 記載の構成において、操作片の摺接突片に当接縁に係止する係止部を加えたこと、にある。

【0 0 3 3】

請求項 9 の上記構成により、係止部と当接縁との係止により、不本意なキャップ体の取り外れを防止する。

【0 0 3 4】

請求項 10 記載の発明の手段は、請求項 9 記載の発明において、係止部の当接縁への係止を乗り越え係止とし、この乗り越え係止動作においての弾力的な戻り変形により音が発生される構成とすること、にある。

【0 0 3 5】

請求項 10 の上記構成により、係止部と当接縁の係止により、キャップ体の容器体および装着体への組付きが完了するが、この組付き状態を乗り越え係止時の音で確認することができ、安全性に優れ、安心して使用することができる。

【0 0 3 6】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の第 1 実施例を、図面（図 1 ～図 5）を参照しながら説明する。

容器体 19 はエアゾール式容器であり（図 2、図 3 参照）、細長有底円筒状をした金属製本体の縮径した口部に、弁による開閉機能部を備えた注出ノズル 21 を有する金属製のキャップをカシメ固定して頭部 20 を形成し、注出ノズル 21 は、この頭部 20 上面に起立した状態となっている。

【 0 0 3 7 】

装着体 1（図 1、図 2、図 3、図 5 参照）は、並列に隣接配置された一対の容器体 1 9 の上端部に外嵌する長円筒状の外装筒 2 の上端に、開口部 5 を開設して内鑄状となった頂板 4 を連設し、この頂板 4 の下面の左右両端部に、容器体 1 9 の頭部 2 0 に外嵌して、頭部 2 0 直下の周溝部 2 2 にアンダーカット結合する、略半円弧筒片状の嵌着筒状片 6 を垂下設すると共に、頂板 4 の上面の開口部 5 左右開口縁に、半円弧筒片状のガイド片 7 を起立設し、さらに外装筒 2 の前後表面の中央部に、縦突条状の支え突片 3 を間隔を開けて一対づつ設けて構成されている。

【 0 0 3 8 】

この装着体 1 は、並列に隣接配置された一対の容器体 1 9 に、上方から被嵌状に組付けることにより、両嵌着筒状片 6 が容器体 1 9 の頭部 2 0 に強固にかつ不動に外嵌結合して組付き、注出ノズル 2 1 は開口部 5 から突出した状態となる。

【 0 0 3 9 】

また、外装筒 2 は長円筒状となっているので、一対の容器体 1 9 に外装した状態では、その前後壁の中央部分と両容器体 1 9 との間に、両容器体 1 9 の隣接部に形成される谷状部により、空間が形成される。

【 0 0 4 0 】

キャップ体 8（図 1、図 2、図 3、図 4 参照）は、下面の左右両端部に、注出ノズル 2 1 が密嵌入して突き当たる段付き孔 1 1 を開設すると共に、上面の中央に注出口を形成する注出筒片 1 2 を起立設し、内部に両段付き孔 1 1 と注出筒片 1 2 内とを連通する注出路 1 0 を形成し、さらに左右両端部に、ガイド片 7 が上下に摺動変位自在に遊嵌するガイド孔 1 3 を形成した押圧ブロック 9 の前後表面の中央から、一対の垂下片 1 5 を垂下設し、この垂下片 1 5 を下方に延長して操作片 2 5 を垂下接続して構成されている。

【 0 0 4 1 】

段付き孔 1 1 を注出ノズル 2 1 に装着した状態で、外装筒 2 の前後の下面縁である当接下縁 2 7 に対向する両操作片 2 5 の下端部の内側面には、上面を傾斜ガイド面 1 8 とした三角板片状をした左右一対の摺接突片 1 7 が、その傾斜ガイド

面 1 8 の下端部を、外装筒 2 の当接下縁 2 7 a に軽く当接させて設けられており、この摺接突片 1 7 が設けられた操作片 2 5 の下端部の外側には、指当て部 1 6 が肉盛り状に形成されている。

【 0 0 4 2 】

両垂下片 1 5 および操作片 2 5 は、キャップ体 8 が一对の容器体 1 9 と装着体 1 との組合せ物に組付けられると、一对の支え突片 3 の間に位置して、外装筒 2 に前後表面に沿って垂下状に位置するが、この垂下片 1 5 および操作片 2 5 の外面は、両側の支え突片 3 よりも外方に突出することはない。

【 0 0 4 3 】

また、両操作片 2 5 は、一对の容器体 1 9 と装着体 1 との組合せ物に対してキャップ体 8 が組付けられた状態で、摺接突片 1 7 の傾斜ガイド面 1 8 の下端部を外装筒 2 の当接下縁 2 7 a に軽く当接させて、この外装筒 2 の当接下縁に軽く係止した状態となっているので、この係止力がキャップ体 8 の組付きを保持することになる。

【 0 0 4 4 】

そして、両操作片 2 5 の摺接突片 1 7 は、外装筒 2 と一对の容器体 1 9 との間に空間が形成される、前後側の中央部分に位置するので、両操作片 2 5 を摘まみ状に押圧操作した際に、摺接突片 1 7 は容器体 1 9 に突き当たることなく内方に変位して、両垂下操作片 1 5 を確実に引き下げる。

【 0 0 4 5 】

なお、本実施例の場合、押圧ブロック 9 は、注出路 1 0 の成形の都合から、上蓋状の本体部分と、この本体部分の下面側に密に嵌まり込み、一对の段付き孔 1 1 を開設した下蓋板片 1 4 とから構成されている。

【 0 0 4 6 】

また、注出筒片 1 2 は短円筒状となっているが、この注出筒片 1 2 の構造は短円筒状に限定されることはなく、例えば細長円筒状であっても良く、さらには各櫛歯片に吐出口を設けた櫛体を組付けても良い。

【 0 0 4 7 】

図 6 は、本発明の第 2 実施例を示すもので、第 1 実施例において、外装筒 2 の

前後壁の中央部に、下半分を切り取って切欠きを形成し、この切欠きの上端縁を形成する部分を外装筒 2 の当接下縁 27a としたもので、一对の容器体 19 の並列組付き姿勢を安定的に保持するために必要な外装筒 2 の長さを保ちながら、垂下片 15 の長さを短くすることができるようにしている。

【0048】

図 7 は、本発明の第 3 実施例を示すもので、第 1 実施例において、摺接突片 17 先端に外装筒 2 の当接下縁 27a に乗り越え係止する係止部 29 を付設した構成としており、不本意なキャップ体 8 の外れをより確実に防止できるようにしている。

【0049】

また、乗り越え係止時の弾力的な戻り変形により、摺接突片 17 の傾斜ガイド面と当接下縁 27a との衝突音を発生させる構成としており、この音によりキャップ体 8 の容器体 19 および装着体 1 への組付きの完了を確認することができ、取扱い性、安全性に優れ安心して使用することができる。

【0050】

図 8 は、本発明の第 4 実施例を示すもので、第 1 実施例において、操作片 25 の下端部近傍の幅を拡幅することにより、この操作片 25 の側端面に係止段差 25a を形成し、この係止段差 25a が支え突片 3 の下端面に乗り越え係止する構成としており、係止段差 25a と支え突片 3 下端面の乗り越え係止により、不本意なキャップ体の外れをより確実に防止できるようにしている。

【0051】

また、本実施例は上記係止段差 25a 以外の摺接突片 17、傾斜ガイド 18、当接下縁 27a 等の構成は第 1 実施例（図 3 参照）と同様であり、係止段差 25a の支え突片 3 下端面への乗り越え係止時の弾力的な戻り変形により、摺接突片 17 の傾斜ガイド 18 と当接下縁 27a との衝突音を発生させる構成であり、この音によりキャップ体 8 の容器体 19 および装着体 1 への組付きの完了を確認することができ、取扱い性、安全性に優れ安心して使用することができる。

【0052】

図 9 は、本発明の第 5 実施例を示すものであり、第 1 実施例において主として垂

下片 15 への操作片 25 の連設位置を変えた例である。

【0053】

外装筒 2 の下端面、前後面の中央部の位置から一対の外鍔状の外鍔片 28 を付設し、当接縁 27 をこの外鍔片 28 の下面縁の一部である外鍔下縁 27c とし、垂下片 15 の略中央高さから下端部にかけての部分に窓状の垂下片開口部 30 を開設すると共に、垂下片 15 の下端面から底壁を介して上方向に操作片 25 を連立設し、この操作片 25 の内側面に斜め内下方に下降傾斜した傾斜ガイド面 18 を外鍔下縁 27c に摺接させる摺接突片 17 を突設している。

【0054】

容器体 19 に装着体 1 さらにキャップ体 8 を装着した状態で、外鍔片 28 が垂下片 15 の垂下片開口部 30 に対向する箇所に位置し、傾斜ガイド面 18 の下端部に、外鍔下縁 27c が軽く当接するよう構成されている。

【0055】

本実施例の構成では、操作片 25 を底壁を介して上方に連接立設しており、また当接縁 27 を外鍔片 28 の下面縁としているので、傾斜ガイド面 18 と当接縁 27 との当接を外装筒 2 の外周面から離れた位置に配置することができ、操作片 25 の押圧動作における、変位幅を大きくし、注出ノズル 21 の押し下げ距離を大きくすることができ、比較的大きな押し下げ距離を要するポンプ式注出容器も容易に使用することが可能となる。

【0056】

図 10 は、本発明の第 6 実施例を示すものであり、第 1 実施例とは逆に外装筒 2 に操作片 25 を、垂下片 15 に当接縁 27 を設けた例である。

【0057】

垂下片 15 の略中央高さの部分に窓状開口部 31 を開設し、当接縁 27 を窓状開口部 31 の下部開口縁の一部である当接上縁 27b とし、外装筒 2 の前後面の中央部の下端部から筒壁を下方に延長し、窓状の延長片開口部 32 を開設した、一対の延長片 26 を垂下設し、さらにこの延長片 26 の下端面に底壁を介して上方向に操作片 25 を立設し、この操作片 25 の内側面に、先端に係止部 29 を形成し、斜め内上方に上昇傾斜した傾斜ガイド面 18 を当接上縁 27b に摺接させ

る摺接突片 17 を突設している。

【0058】

容器体 19 に装着体 1 さらにキャップ体 8 を装着組付けた状態で、キャップ体 8 の垂下片 15 の下部が延長片 26 と操作片 25 の間に位置し、また当接上縁 27b が延長片開口部 32 に対向し、傾斜ガイド面 18 の上端部に、窓状開口部 31 の当接状縁 27b が軽く当接するよう構成されている。

【0059】

本実施例は、外装筒 2 に操作片 25 を接続する構成であり、操作片 25 の押圧操作によりキャップ体 8 が下方に引き下げられ動きになり、容器体 19 の持ち上げ動作を伴わないので、注出操作を安定して実施することが可能である。

【0060】

【発明の効果】

本発明は、上記した構成となっているので、以下に示す効果を奏する。

請求項 1 記載の発明は、一对の容器体に対する装着体およびキャップ体の組付けは、単なる嵌め込みだけで達成されるので、その組付け構造が簡単となると共に、内容物の注出時に、両容器の注出ノズルが等しく押し下げられるので、両容器から注出される内容物の量が常に均等となり、これにより内容物の適正な注出使用を得ることができる。

【0061】

容器体の注出ノズルに対する押圧ブロックの姿勢が、内容物の注出時に変化することがなく、段付き孔に対する注出ノズルの姿勢を常に一定に保持することができ、これにより注出ノズルとの間の強固なシールを安定して保持することができる。

【0062】

請求項 2 記載の発明により、高圧でも十分なシール性を確保でき、両容器の内容物の混合を均一に達成することが可能な、エアゾール式の注出容器を提供することができる。

【0063】

請求項 3 記載の発明により、装着体の外装筒の下端部をそのまま当接縁とし、

外装筒に外嵌する垂下片をそのまま延長して操作片としたものであり、簡単な構造で操作する部分を形成することができる。

【0064】

また注出ノズルの開閉を行なう操作片は、外方に突出することなく、容器体の表面に沿って位置するので、他の物品に引っ掛かることが少なく、また両垂下操作片が押圧されなければ、注出ノズルを引き下げることができないので、一方の垂下操作片が不本意に押圧されても、内容物は注出されず、これにより安全な取扱いを容易に得ることができる。

【0065】

請求項4記載の発明は、支え突片が、両垂下操作片の姿勢を安定的に保持すると共に、他の物品に前後から挟まれた状態となっても、この他の物品に突き当たることにより、両垂下操作片が同時に押圧されるのを確実に防止し、内容物の不正注出の発生を効果的に防止する。

【0066】

請求項5記載の発明は、係止段差が支え突片の下端面に乗り越え係止する構成とすることにより、不本意なキャップ体の取り外れをより確実に防止することができる。

【0067】

請求項6記載の発明は、係止段差の支え突片下端面への乗り越え係止動作においての弾力的な戻り変形により音が発生される構成とすることにより、取扱い性、安全性に優れ安心して使用することができる注出容器を提供することができる。

【0068】

請求項7記載の発明は、傾斜ガイド面と当接縁との当接を外装筒の外周面から離れた位置に配置することができ、操作片の押圧動作における、変位幅を大きくとることができ、注出ノズルの押し下げ距離を大きくすることが可能となり、比較的大きな押し下げ距離を要するポンプ式注出容器体も容易に使用することができる。

【0069】

請求項 8 記載の発明は、外装筒に操作片を接続した構成であり、操作片の押圧操作によりキャップ体が下方に引き下げられる動きになり、容器体の持ち上げ動作を伴わないので、注出操作を安定して実施することが可能である。

【 0 0 7 0 】

請求項 9 記載の発明は、係止部と当接縁との係止により、不本意なキャップ体の取り外れをより確実に防止する。

【 0 0 7 1 】

請求項 1 0 記載の発明は、係止部の当接縁への該乗り越え係止動作においての弾性的な戻り変形により音が発生される構成とすることにより、取扱い性、安全性に優れ安心して使用することができる、注出容器を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第 1 実施例を示す、使用状態の全体斜視図。

【図 2】

第 1 実施例の、装着体とキャップ体を半縦断した正面図。

【図 3】

第 1 実施例の、右側は容器体中心部、左側は容器中心部で装着体とキャップ体を半縦断した側面図。

【図 4】

第 1 実施例の、全体平面図。

【図 5】

第 1 実施例の、装着体とキャップ体との組合せ物の底面図。

【図 6】

本発明の第 2 実施例の、右側は容器体中心部、左側は容器中心部で装着体とキャップ体を半縦断した側面図。

【図 7】

本発明の第 3 実施例の、乗り越え係止の状態を縦断面で示した、要部拡大図。

【図 8】

本発明の第 4 実施例の、乗り越え係止の状態を部分的な斜視図で示した、説明

図。

【図 9】

第 5 実施例の、右側は容器体中心部、左側は容器中心部で装着体とキャップ体を半縦断した側面図。

【図 1 0】

第 6 実施例の、右側は容器体中心部、左側は容器中心部で装着体とキャップ体を半縦断した側面図。

【符号の説明】

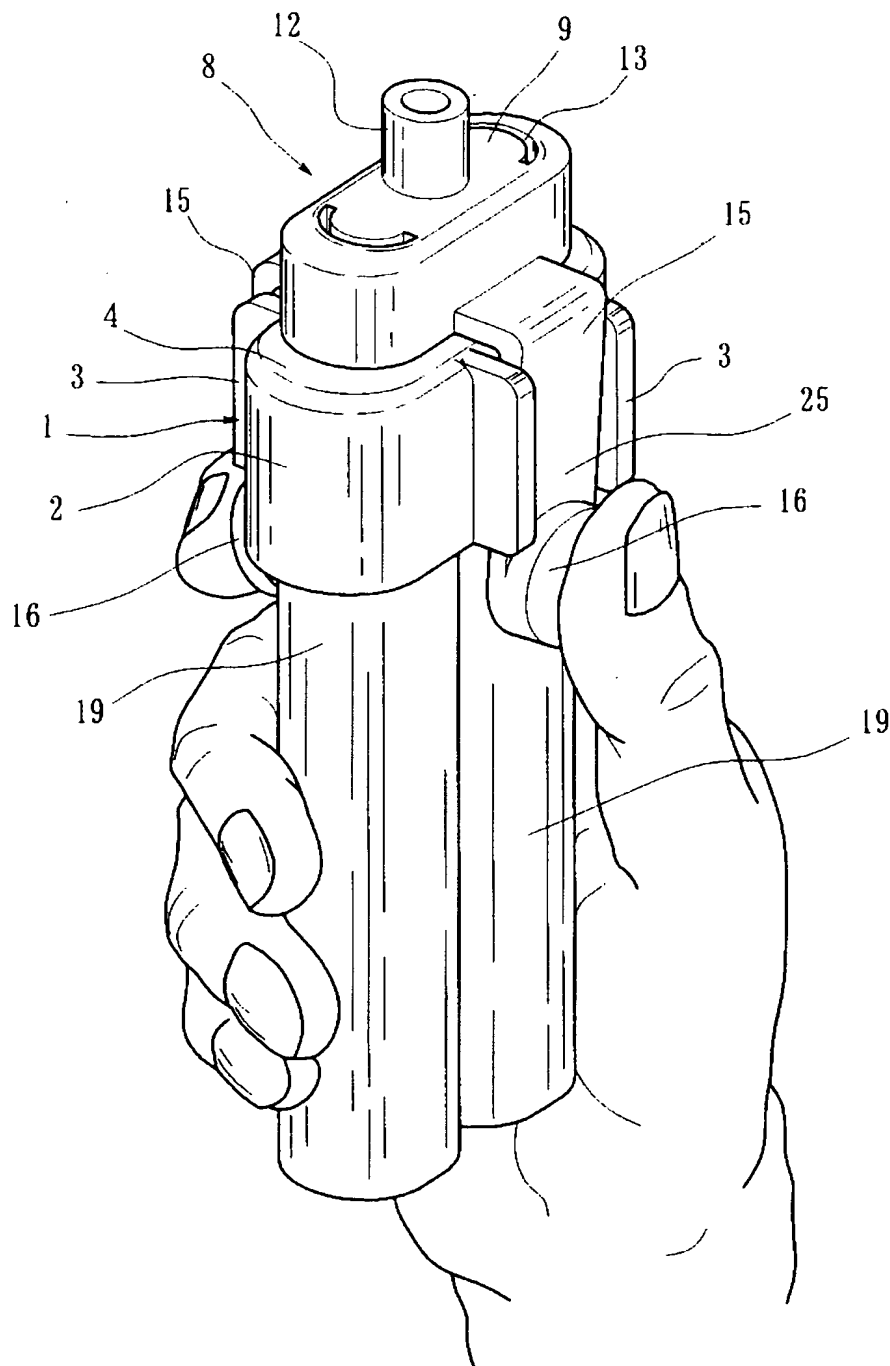
- 1 ； 装着体
- 2 ； 外装筒
- 3 ； 支え突片
- 4 ； 頂板
- 5 ； 開口部
- 6 ； 嵌着筒状片
- 7 ； ガイド片
- 8 ； キャップ体
- 9 ； 押圧ブロック
- 1 0 ； 注出路
- 1 1 ； 段付き孔
- 1 2 ； 注出筒片
- 1 3 ； ガイド孔
- 1 4 ； 下蓋板片
- 1 5 ； 垂下片
- 1 6 ； 指当て部
- 1 7 ； 摺接突片
- 1 8 ； 傾斜ガイド面
- 1 9 ； 容器体
- 2 0 ； 頭部
- 2 1 ； 注出ノズル

- 2 2 ； 周溝部
- 2 5 ； 操作片
- 2 5 a ； 係止段差
- 2 6 ； 延長片
- 2 7 ； 当接縁
- 2 7 a ； 当接下縁
- 2 7 b ； 当接上縁
- 2 7 c ； 外鍔下縁
- 2 8 ； 外鍔片
- 2 9 ； 係止部
- 3 0 ； 垂下片開口部
- 3 1 ； 窓状開口部
- 3 2 ； 延長片開口部

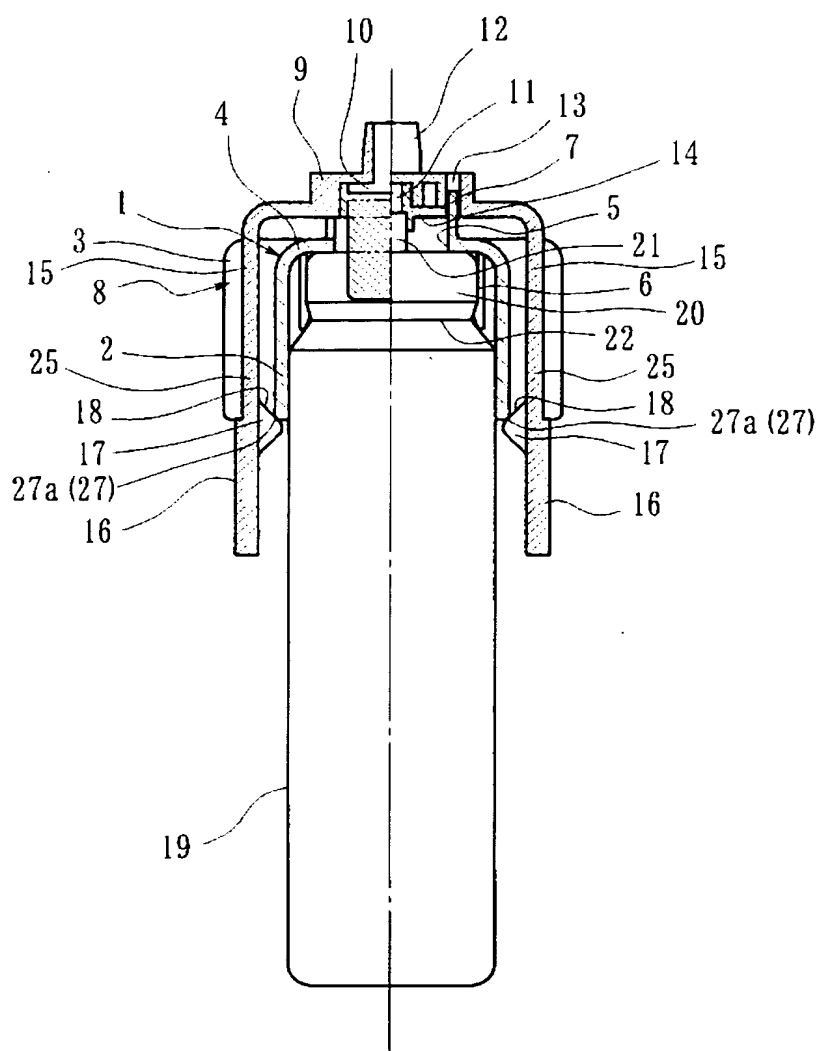
【書類名】

図面

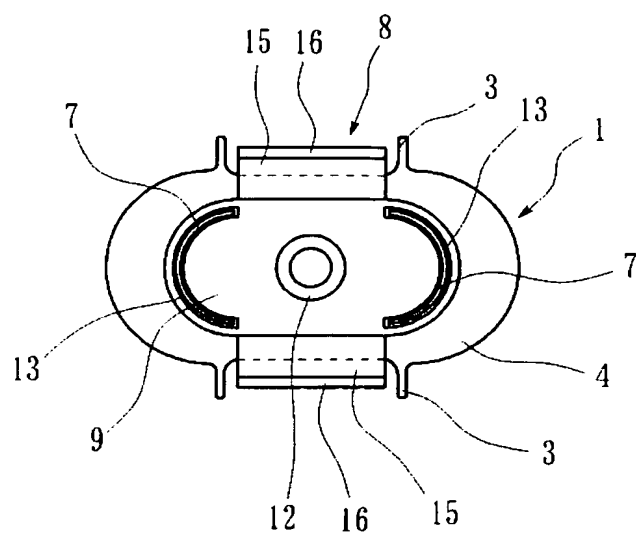
【図 1】



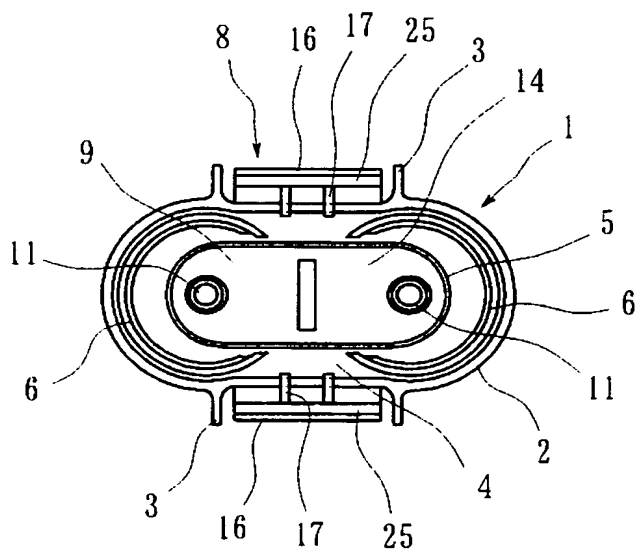
【図 3】



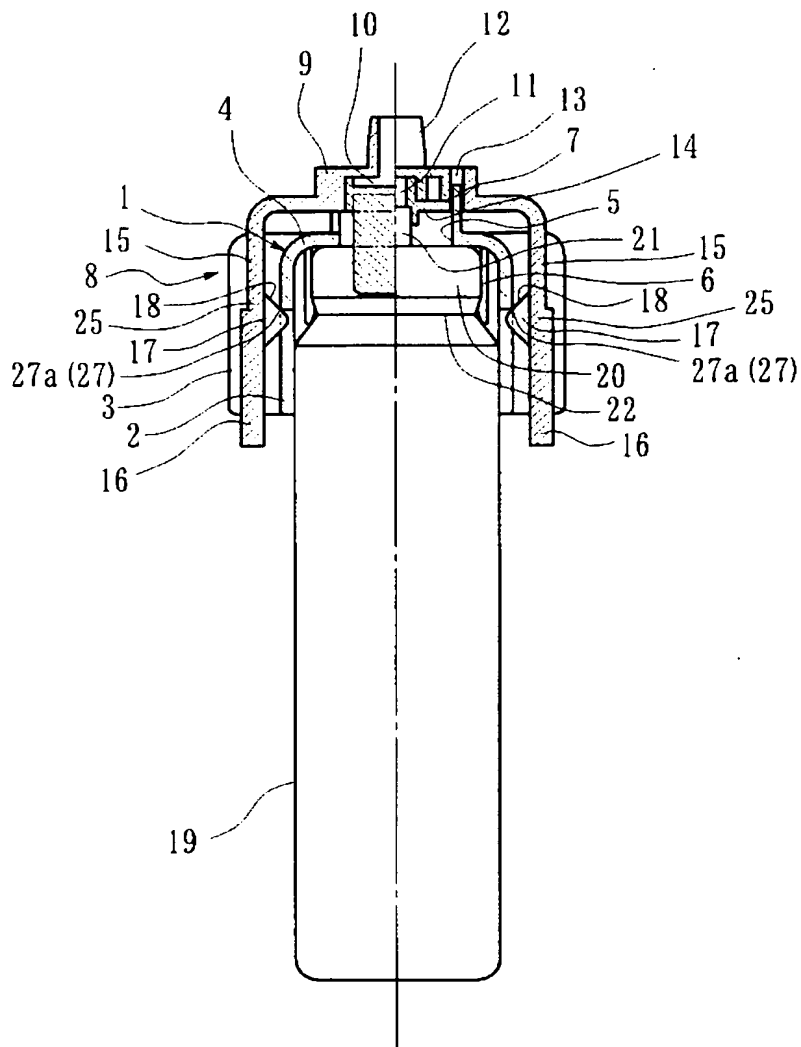
【図 4】



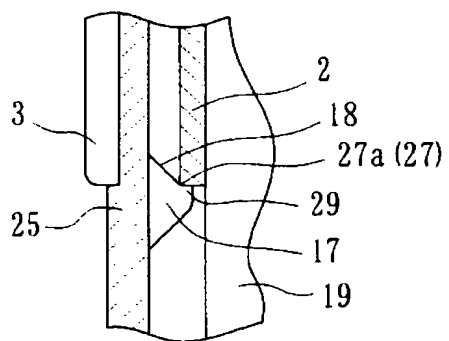
【図 5】



【図 6】

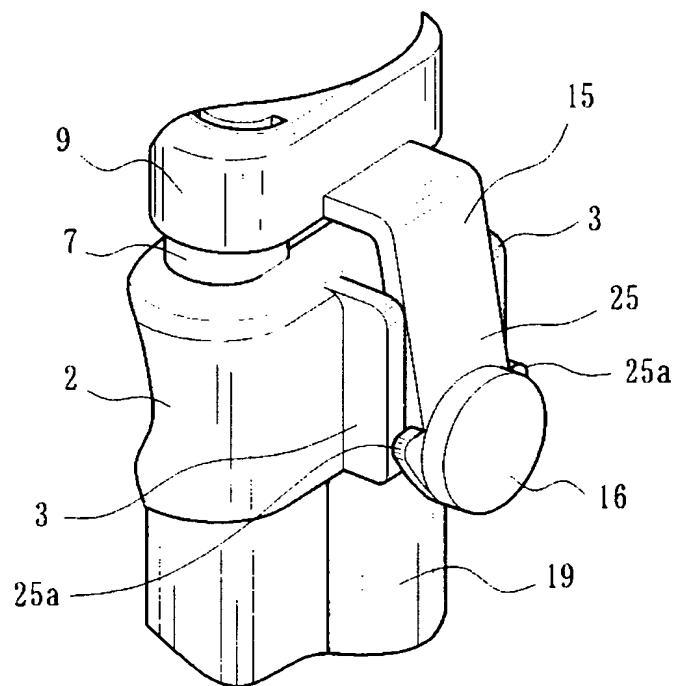


【図 7】

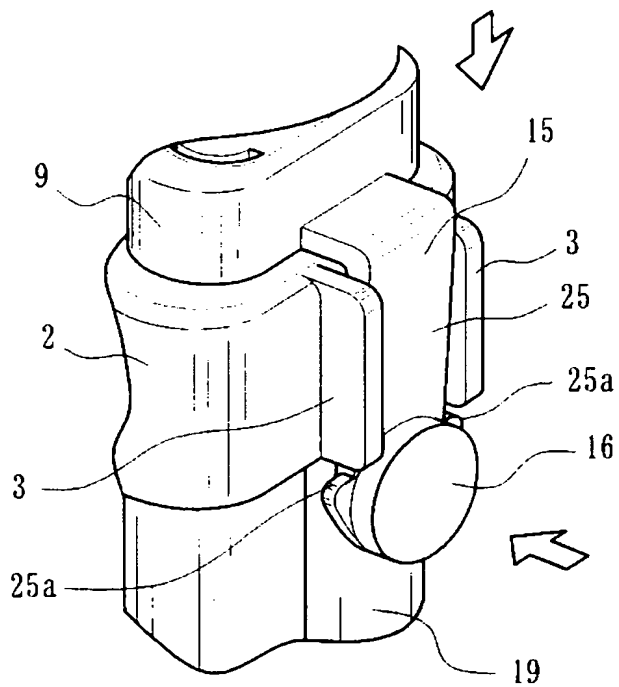


【図 8】

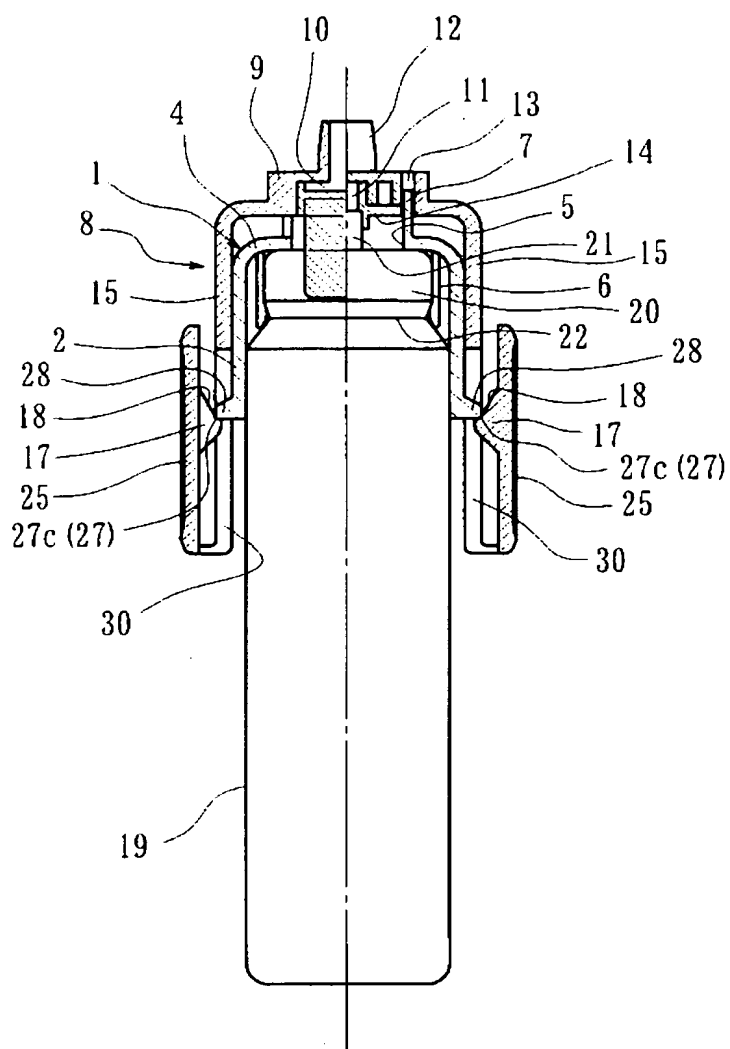
(a) 装着途中



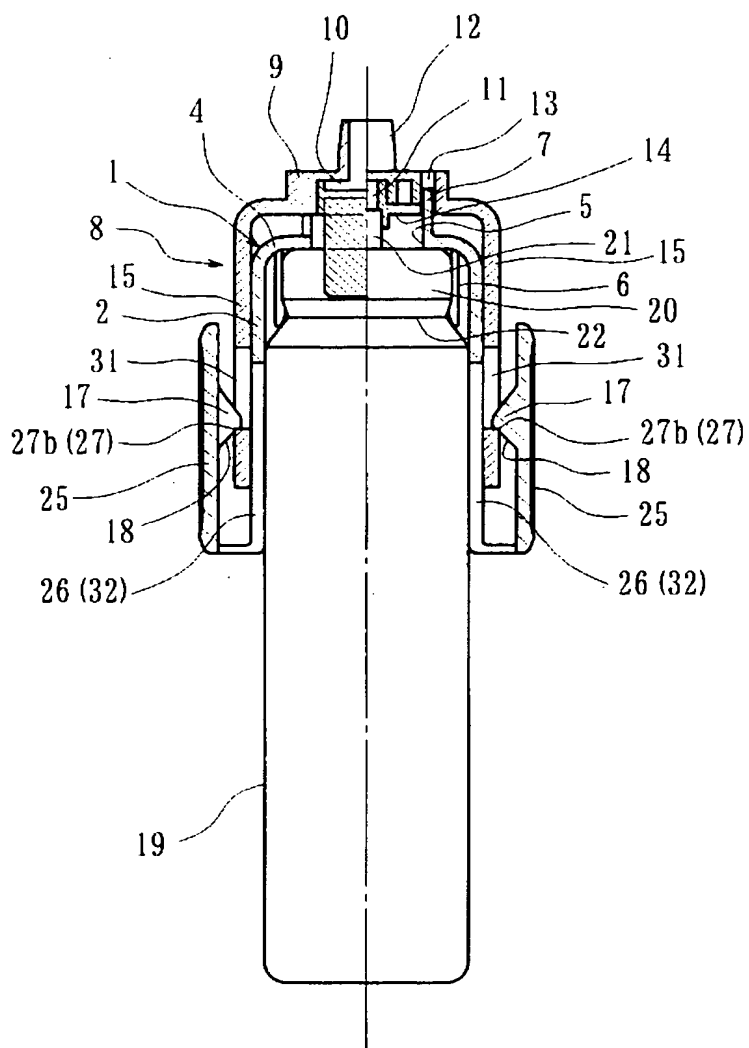
(b) 装着完了



【図 9】



【図 10】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 容器を掴持した片手の指先の操作により、容器の注出ノズルを押し下げる部分を、簡単に安定して下降変位させることにより、内容物注出部分の姿勢を一定させると共に、強固なシールを安定して維持し、さらに良好で安全な取扱い状態を得る。

【解決手段】 隣接配置された一对の注出ノズルを有した容器体と、一对の容器体の上端部に外嵌する外装筒を有し、容器体の注出ノズルを上方に突出させた状態で不動に容器体を外装する装着体と、注出ノズルに組付いて注出路を形成する押圧ブロックに一对の垂下片を垂下設したキャップ体とから構成し、垂下片および外装筒のいずれか一方に、指先による摘まみ状の押圧操作により注出ノズルに引き下げ力を作用させる一对の操作片を連設し、三者の単純な嵌め込みにより組立てを達成すると共に、両操作片を押圧しなければ内容物を注出することができないようにして、安全性を高めた。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 1 - 3 0 4 1 0 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 0 9 5 2]

1. 変更年月日

2 0 0 1 年 1 月 4 日

[変更理由]

名称変更

住 所

東京都墨田区墨田五丁目 1 7 番 4 号

氏 名

カネボウ株式会社

特願 2 0 0 1 - 3 0 4 1 0 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 6 9 0 9]

1 . 変 更 年 月 日

1 9 9 0 年 8 月 2 3 日

[変 更 理 由]

新 規 登 録

住 所

東 京 都 江 東 区 大 島 3 丁 目 2 番 6 号

氏 名

株 式 会 社 吉 野 工 業 所